

## トルコで拡大するアクセサリー用の金需要

～購買力のある中産階級の台頭が金需要の拡大を促す～

2007年2月6日(火)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

### ～要 旨～

世界の金(ゴールド)需要が拡大している。2005年の金需要は3734.1トンと、04年に比べて6.8%の大幅増となった。2006年に入ってから、金の国際価格が高騰していることもあって数量ベースの金需要は伸び悩んでいるが、金額ベースでは1～9月までの実績で前年比22.2%の高い伸びを記録した。金需要は、アクセサリー用 投資用 工業用 歯科用の4つに大別されるが、これらのなかで最も大きいのはアクセサリー用であり、金需要全体の8割を占める。

アクセサリー用の金消費が最も多い国はインドで、05年には世界各地で生産された金の21.5%がインドによって吸収された。以下、米国(12.9%)、中国(8.8%)、トルコ(7.2%)と続く。以下では、世界第4位のアクセサリー用金需要国トルコにおける金消費のトレンドを眺めてみたい。

これまでのトルコの金消費の動向をみると、2004年頃から数量ベースの需要が大幅に増加している様子が分かる。直近の2005年は、前年比+5.9%増の248.4トンとなった。ポストB R I C s の有力グループ「V I S T A」の一角を占めるトルコでは、500年の歴史を誇るオスマントルコ帝国の時代から、国民の間で美しい金細工などアクセサリー用の金に対する根強い需要があった。またトルコは、昔から中東諸国向けの金の再輸出基地となっており、輸出向けの金の在庫も豊富にあった。

近年では、蓄財の一手段として金を購入する人が増えている。とくに、2000年から2001年にかけて、トルコが未曾有の金融危機に見舞われた時期には、毎年50%を超える激しいインフレが続いたこともあって、インフレ・ヘッジを目的とした金需要が大幅に拡大した。自国の通貨リラを現金で保有していても、インフレによってすぐに価値が下がってしまうため、ある程度のお金がたまるとすぐに外貨や金に交換する人が多かったのである。

2003年以降は、通貨価値の下落に歯止めがかかってきたことなどから、インフレ率が低下しており、インフレ・ヘッジを目的とした金の需要はそれほど大きく拡大しなくなった。その一方、経済成長によって国民の可処分所得が上昇したことから、中産階級などによるアクセサリー用の金需要が大きく拡大している。今後も、トルコ経済の高成長が続くことが見込まれるなか、アクセサリー用の金需要は金額ベースで拡大傾向で推移すると予測される。

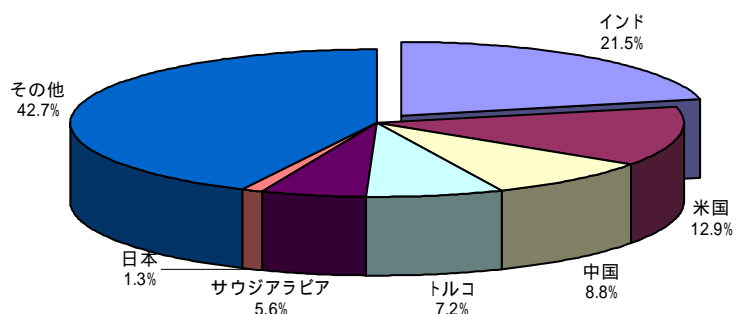
### (人気が高まるアクセサリー用の金需要)

世界の金(ゴールド)需要が拡大している。2005年の金需要は3734.1トンと、04年に比べて6.8%の大幅増となった。2006年に入ってから、金の国際価格が高騰していることもあって数量ベースの金需要は伸び悩んでいるが、金額ベースでは1～9月までの実績で前年比22.2%の高い伸びを記録した。

金需要は、アクセサリー用 投資用 工業用 歯科用の4つに大別されるが、これらのなかで最も大きいのはアクセサリー用であり、金需要全体の8割を占める。

アクセサリー用の金消費が最も多い国はインドで、05年には世界各地で生産された金の21.5%がインドによって吸収された。以下、米国(12.9%)、中国(8.8%)、トルコ(7.2%)と続く(図表1)。日本はわずか1.3%を占めるにすぎない。

図表1 世界の金需要の内訳(トンベース、2005年)



(出所) Gold Field Mineral Services Ltd. 資料より作成

### (オスマントルコの時代からゴールド需要が旺盛だったトルコ)

以下では、世界第4位のアクセサリー用金需要国トルコにおける金消費のトレンドを眺めてみたい。これまでのトルコの金消費の動向をみると、2004年頃から数量ベースの需要が大幅に増加している様子が分かる(図表2)。直近の2005年は、前年比+5.9%増の248.4トンとなった。投資用とアクセサリー用に分けると、アクセサリー用の需要が圧倒的に多く、全体の78.5%がアクセサリー用で占められる。

ポストBRICsの有力グループ「VISTA」<sup>(注)</sup>の一角を占めるトルコでは、500年の歴史を誇るオスマントルコ帝国の時代から、国民の間で美しい金細工などアクセサリー用の金に対する根強い需要があった。またトルコは、昔から中東諸国向けの金の再輸出基地となっており、輸出向けの金の在庫も豊富にあった。

近年では、蓄財の一手段として金を購入する人が増えている。とくに、2000年から2001年にかけて、トルコが未曾有の金融危機に見舞われた時期には、毎年50%を超える激しいインフレが続いたこと

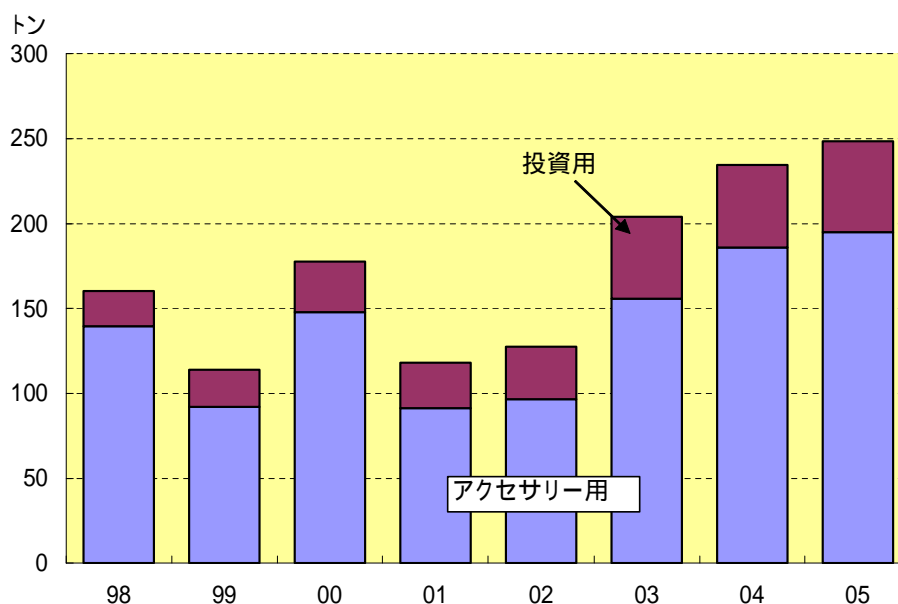
もあって、インフレ・ヘッジを目的とした金需要が大幅に拡大した。自国の通貨リラを現金で保有していても、インフレによってすぐに価値が下がってしまうため、ある程度のお金がたまるとすぐに外貨や金に交換する人が多かったのである。富裕層でなくても、安全資産として金を保有する人の数は相当の数に上った。

2003年以降は、通貨価値の下落に歯止めがかかってきたことなどから、インフレ率が低下しており、インフレ・ヘッジを目的とした金の需要はそれほど大きく拡大しなくなった。その一方、経済成長によって国民の可処分所得が上昇したことから、中産階級などによるアクセサリー用の金需要が大きく拡大している。今後も、トルコ経済の高成長が続くことが見込まれるなか、アクセサリー用の金需要は金額ベースで拡大傾向で推移すると予測される。

金の国際価格は大幅に上昇しており、2007年1月時点では1オンス=631.2ドルとなった。金の国際相場は、投機も含めて様々な要因が複雑に絡み合うため、先行きを見通すことは難しいが、需給面に着目すると、最大の金消費国であるインドで需要の拡大が見込めるほか、経済成長の著しい中国やトルコにおいても個人の金購買意欲が高まると見込まれること、金生産国である南アで鉱山の開発が遅れ気味となっていること、欧州の中央銀行による金の大量売却がピークアウトしたことなどから、当面、金需給の逼迫した状態が続くとみられ、これらが金相場の押し上げ要因として作用するだろう。

(注) V I S T A (ビスタと発音) とは、ベトナム (Vietnam)、インドネシア (Indonesia)、南アフリカ (South Africa)、トルコ (Turkey)、アルゼンチン (Argentina) の5カ国の英語の頭文字をつなげた造語で、「眺望、眺め」をあらわす英語の「V I S T A」にかけたもの。高成長のための条件を備えた有力新興国で、ポストB R I C s の最有力候補グループ。「V I S T A」はB R I C s 経済研究所が命名。「V I S T A」は、地理的なリスク分散も考慮して、東南アジア、中東、南米、アフリカからバランスよく候補国を選んでいる点に特徴がある。

図表2 トルコにおける金需要の推移



(出所) Gold Field Mineral Services Ltd. 資料より作成